

胴縁撤去の作業手順書

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 工事流入箇所の確認 車輛の順番の確認 安全打合せ書による。 作業別安全チェックシートの活用。
火災検知器カバー設置	<ul style="list-style-type: none"> 作業範囲を確認し火災検知器にカバーを二重に隙間のないよう、また飛散しないように設置する。 施設制御室に作業開始の連絡をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業時は必ず監視員を配置する。 設置した検知器番号を控えておく。 外線：0586-81-6772
防護管布設	<ul style="list-style-type: none"> 胴縁切断範囲から前後1m余分にケーブル箇所に防護する。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルの種類、条数を確認し作業者全員に周知する。 ケーブルを損傷しない様十分注意する。 ※露出ケーブル等で、不明なケーブルがある場合は、KPの確認と位置を監査廊に明記し写真を撮影しエンジ名古屋(施設)に確認を行う。作業方法が決まるまで作業は行わない。
飛散防止ネット設置	<ul style="list-style-type: none"> 監査廊ハンドレール手すりに飛散防止ネットにフックをつけた物を取り付ける。 監査廊上にブルーシートで敷養生をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業完了後、次の場所にネット移動するとき足下に十分注意する。
胴縁撤去工	<ul style="list-style-type: none"> 切創用手袋を必ず着用する。ケーブルの防護を確認し、胴縁を切断する。 刃をケーブルに向けないよう注意する。 必ず2人でトラックに積み込む。 アンカー撤去後は防錆剤にて表面の保護を行う。 移動時作業者は作業台から降り、作業員・飛散物が作業台に無いのを確認しゆっくり車両を前進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高さ2m以上になる高所では安全帯を着用・設置する 胴縁が落下しないよう必ずもう1人が胴縁を押さえるようにする。 ケーブルに接触しないよう十分注意する。 スプレー缶を落とさないよう腰袋に必ず入れておく。 監視員を配置し構造物に接触しないよう運転者と確認しながらゆっくり移動する。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具を機材をトラックに積み込み最後にほうきで路面・監査廊の清掃を行う。 積荷の落下防止シートを確実にかける。 火災検知器のカバーを撤去する。 施設制御室に作業終了の連絡をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現場に道具の忘れ物、路面散乱物が無いか十分確認を行う。 二人以上で作業し積荷確認書にてチェックする。 火災検知器の番号と照合し忘れのないよう注意する。 外線：0586-81-6772
産業廃棄物処理	<ul style="list-style-type: none"> 取り外した胴縁は指定されたチェーンベースに一時保管する。 最終、産業廃棄物処理業者に運搬・処理を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> CBの出入りに十分注意し、一般車両との車間距離を十分とる。 分別しブルーシートで廃棄物をしっかり覆っておく。 誘導員の配置、運転者と打合せ運搬ルートの確認。

作業編成(標準)			機材		資材	安全器具・保護具	
作業責任者	1	名	セーバソー	コードリール		ヘルメット	防塵マスク
現場監視員	1	名	インパクトドライバー			自発光チョッキ	保護メガネ
作業員	2	名	バール			警笛	ヘッドライト
			ハンマー			シラスンダ	テラスンダ
			防錆剤			安全帯	LED矢印
			防炎シート			ケーブル防護管	ピカボン
			土嚢袋			飛散防止ネット	消火器
			発電機(充電用)			落下物防止ワイヤー	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 有資格者による、機械作業を行う。
- 車両誘導の徹底。
- 運転者が車両から降りる際は後方確認を十分行い規制内側から乗降する。
- 車両移動時は、必ず誘導員を配置して構造物に接触しないよう注意する。
- 積荷の積載量オーバーの禁止。
- 照明器具は一般車両の方に向けないよう注意する。
- 専用の切創用手袋を必ず着用すること。
- 手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 一人作業の禁止**